

(別記)

令和 7 年度上野原市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約 10%で、転作作物に占める小麦、大豆、そばの面積が年々減少している。土地利用型作物の担い手への集積が進んでいるが、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られる。こうした中、水稻作付面積の維持が課題となっている。

そのほか、麦、大豆については、排水不良、土壌酸度の不適正等により単収の低下を招いており、是正が必要になっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

既存農作物の抑制栽培を行うことでコストは今までどおりで、付加価値を向上させるような生産方法の確立を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

畦の除去等による一体利用できる畑作りをすることで、機械化及び大規模経営を目指し、担い手の確保へ繋げることを目標とする。

4 作物ごとの取組方針等

市内の約 42ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（１）主食用米

売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

（２）備蓄米

（３）非主食用米

ア 飼料用米

イ 米粉用米

ウ 新市場開拓用米

エ WCS 用稲

オ 加工用米

(4) 麦、大豆、飼料作物

現行の排水良好水田（約 24ha）においては、排水対策等に取り組みながら、5年後においても、現行の麦・大豆の作付面積を維持する。

(5) そば、なたね

(6) 地力増進作物

(7) 高収益作物

5 作物ごとの作付予定面積等	～	8 産地交付金の活用方法の明細
----------------	---	-----------------

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	21		21		21	
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲						
加工用米						
麦	0.3		0.3		0.3	
大豆	0.2		0.2		0.2	
飼料作物						
・子実用とうもろこし						
そば						
なたね						
地力増進作物						
高収益作物	91.5		91.7		91.7	
・野菜	90		90		90	
・花き・花木						
・果樹						
・その他の高収益作物	1.5		1.7		1.7	
その他						
・〇〇						
畑地化						

令和7年度 上野原市地域農業再生協議会委員名簿

所 属	職名	氏 名	備 考
上野原市農業委員会	会 長	高橋 正	会長
クレイン農業協同組合	組合長	高橋 明夫	
北都留森林組合	組合長	加藤 和秀幸	
南都留森林組合	組合長	杉本 光男	
新鮮野菜生産者の会	会 長	古家 勝夫	
山梨県土地改良事業団体連合会	会長	内藤 久夫	
山梨県農業共済組合	支所長	奥脇 正	
	係長	渡辺 真司	
山梨県富士・東部農務事務所	次長	樋口 進	監事
	リーダー	梶原 秀仁	
上野原市産業振興課	課 長	佐渡 忠行	事務局長
		瀧森 哲也	会計
		和田 凌太	